

# 第44回出版研究集会

年間8万点、40年前の4倍もの書籍が流通する一方で、出版産業は今も知的生産の向上に寄与し得ているのでしょうか。8万点の中に、40年前の4倍の良書はあるのでしょうか。「出版不況」が、実は産業の構造的な弱点に起因するものとの危機感が、静かに浸透しています。今ある目の前の危機の中にいる私たちも、いずれ出版産業は崩壊するのではないかという一抹の不安はぬぐえません。一度崩壊しないと再生しないのだという「焼け野原待望論」、いやすでに死んでいるとする「ゾンビ説」…。否、そうしないための方策は何か。出版産業が抱えるさまざまな課題にとりくんだ到達を共有して課題を解き明かし、明日からの仕事に活かす出版研究集会も第44回を迎えます。全体会と分科会を通じて、産業の根幹にかかわる問題について考え、紙であれ電子であれ、私たちの産業にとって今もっとも求められるものとは何かを議論します。即効性の特効薬はありませんが、出版産業を新生していくヒントを探ります。

【全体会】

## 出版産業「崩壊」の危機を 超えて—新生への地図をたどる—

売上げの低迷を多点多発発行で乗り切ってきた版元、アマゾンに太刀打ちできず減り続ける書店、破綻する物流……。編集で、流通で、本屋で、現場は限界を迎え、悲鳴をあげている。20年以上右肩下がりが続く出版産業に未来はあるのか？ 三位一体と言われた版元と取次と書店の関係はどうなる？ 書店抜きで、あるいは流通抜きで、コンテンツ産業は生き残れるのか？ 業界とその周辺を多角的かつ重層的に見つめ、発信してきた2人が語る出版の今日、そして明日。

対談：永江朗さん / 八木良憲さん  
(フリーライター) (共同通信文化部記者)

日時：2017年 9月22日(金) 18:30～20:30

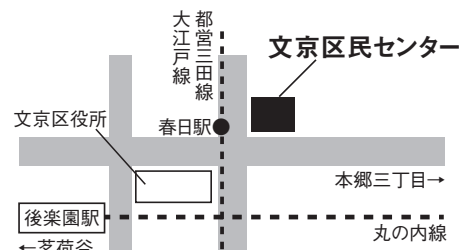
会場：文京区民センター 2-A 会議室  
(文京区本郷 4-15-14 / 地下鉄「春日駅」A2 出口徒歩2分)

開催期間：2017年9月22日(金)～10月20日(金)

参加費：1,000円 (全体会+5分科会通し券)

\*1分科会のみ参加は500円 (全体会のみは1,000円)

主催：出版労連・第44回出版研究集会実行委員会 TEL.03-3816-2911



第1分科会  
9月29日金

## フェイクニュースはなぜ拡散するのか？

講師：古田大輔さん（「バズフィードジャパン」創刊編集長）奥村倫弘さん（「THE PAGE」編集長）

虚偽と剽窃まみれで閉鎖に追い込まれたDeNAのキュレーションサイトの問題は、ネットメディアの脆弱さとともに、読者の変容を浮き彫りにした。なぜフェイクニュースやとんでも記事は拡散するのか？なぜライターは1000字100円でコピペ記事を書くのか。フリーランスの働き方の観点から考える。

第2分科会  
10月4日水

## 図書館の指定管理者制度を考える

講師：座間直壯（なおよし）さん（白百合女子大学非常勤講師・元調布市立図書館館長）ほか

図書館業務を民間業者が代行する指定管理者制度の導入が、全国の公共図書館で進行中。同制度は、入館者増、貸出書籍数増が喧伝される一方、導入の手続きや方法、運営、職員の雇用などでの問題点も指摘されている。講師による制度の実態と現状の報告を踏まえ、望ましい図書館像、図書館と出版社の関係を参加者と共に考える。

第3分科会  
10月6日金

## 出版流通が危ない—取次依存症からの回復—

講師：星野渉さん（文化通信編集長）

アマゾンの動向に揺れる出版業界。雑誌中心のビジネス・取次依存を自覚し、そこから脱け出す時期に来ている。流通の抱える問題および版元・書店の諸外国の先進事例を文化通信の編集長・星野渉さんに紹介していただき、出版流通の危機を切り口としながら取次自身はもちろん版元や書店が進むべき道を模索し、議論する。

第4分科会  
10月13日金

## どうする、どうなる 道徳の教科化

講師：渡辺雅之さん（大東文化大学准教授）

2015年3月に学校教育法施行規則が改正され、現行の学習指導要領の一部改正が告示された。これにより、教科としての道徳の授業が小学校では2018年度から、中学校では2019年度から全面实施されることとなった。道徳が教科化されることにより何が起ころうのか、そしてわたしたち労働組合としてはどのようなとりくみができるのか、模索していく。

第5分科会  
10月20日金

## 国際社会における表現規制の動向と日本への影響

講師：佐藤寿昭さん（東京大学大学院学際情報学府博士課程）

「表現の自由（free speech）」の問題は一国の内部で完結する問題ではない。特に近年のグローバル化の進展と日本のポップカルチャーが諸外国でも著しく受容されている中で「この表現は海外では許されない」などとする「出羽守」的な批判は頻繁に起こっている。本来「表現の自由（free speech）」は、その国や地域の歴史と文化によって大きく異なるものはず。国際社会では、どのように考えられ法規制されているのか。それらが、日本に及ぼしている影響を論じる。

第44回出版研究集会●分科会 ★タイトルは変わる場合があります。

開催期間：2017年9月22日（金）～10月20日（金）

参加費：1,000円（全体会+5分科会通し券）

\*1分科会のみ参加は500円（全体会は除く）

時間：18:30～20:30

場所：出版労連会議室（文京区本郷4-37-18いろは本郷ビル2階／地下鉄「本郷三丁目駅」徒歩3分）

